

第176回「元気に百歳」クラブ 俳句サロン「道草」を開催する

俳句サロン「道草」は、吟行に出かける特別なイベントの開催日でない限り、JR新橋駅近くにある「新橋ばるーん」で開催しています。3月1日に開催した第176回俳句サロン「道草」の日から、日記形式の句会記録を「元気に百歳」クラブのホームページに、残していくことにしたいと思います。俳句サロン「道草」のお仲間だけでなく、会員の皆さんにお楽しみいただければ幸いです。3月1日のご出席は、芦川創風さん、井上蒼樹さん、上田枯葉さん、奥田和感さん、君塚明峰さん、高瀬荻女さん、辻柴楽さん、中島懂岳さん、原晶如さん、本間傘吉さん、森田多佳さん、芦尾白然の12名。板倉歌多音さん、木村栄女さん、住田幸佳さん、舩戸清助さんの4名の方が、欠席投句で参加して下さいました。

住田先生は開講に先立ち例年のことですが、平成30年度の皆勤賞、精勤賞の方々を表彰して下さいました。今年は皆勤賞の方が、創風さん、枯葉さん、明峰さん、多佳さん、和感さん、荻女さん、白然の7名で、蒼樹さんは特別皆勤賞、傘吉さんは精勤賞を贈られました。私たちには励みになります。住田先生有難うございました。さて、本日の句会です。先生が準備して下さいる席題が三つあります。皆さんが時間をかけて詠まれ、選句の結果、天賞句あるいは最多得票賞句（☆印）を獲得した句は次の通りです。なお、住田先生が詠まれた「道人の一句」も一緒にご披露いたします。

席題1. 「春の山」又は「山笑ふ」

◎『梵鐘の余韻を包む春の山』 傘吉

◎『たつぷりと絵筆に水や山笑ふ』 荻女

席題2. 「東風(こち)」又は「強東風(つよごち)」

◎『強東風の波に連山乗りにけり』 晶如

◎『強東風や第一志望通知待つ』 荻女

◎『東風の中しばし背を向け草野球』 明峰

◎『東風の来て子は発ちゆけり駅の朝』 多佳

席題3. 当季雑詠の自由題句

◎『友逝きぬまた友逝きて散る椿』 歌多音

◎『退院の足取り軽ろし春コート』 傘吉

◎『巢立ちたるつばめは何処空青し』 枯葉

◎『雨やさし白花浮き立つ梅古木』 白然

◎『蓬摘むをんな楽しむこと多し』 晶如

(道人の一句)

強東風の来たりて銀輪薙ぎ倒す 住田道人

席題1. では、傘吉さんの句「梵鐘の余韻を包む春の山」が、天賞三つと最多得票賞（☆印）に輝きました。上五に「梵鐘」を置き、叩かれた鐘の音の余韻を下五の「春の山」が温かく包んでいる情景が、読者の共感を獲得したと思われます。お見事でした。荻女さんの句「たつぷりと絵筆に水や山笑う」も天賞一つを獲得しました。上五と中七で表現された「絵筆にたつぷりと含ませた水の豊かさ」を、下五の「山笑ふ」という春の季語でピシリと決め、春を謳歌したところに、選者は一票を投じたのでしょう。選外に洩れましたが、多佳さんの句「山笑ふ仔牛を生みしべこの声」も高得票を獲得しました。長閑な春の情景が浮かびますね。

席題2. では、晶如さんの句「強東風の波に連山乗りにけり」が、天賞一つを獲得しました。この句は何処の海なのでしょう。強東風に大きくうねる波の彼方に見える連山が、ちょうど波に乗っかっているような一瞬を捉えた勇壮な状景です。選者はそこに共鳴したのではないのでしょうか。次は萩女さんの句「強東風や第一志望通知待つ」が、天賞一つを獲得しました。春のこの時期、孫の入学試験の合格を待つ作者の気持ちを採られたと思います。もう一つ、明峰さんの句「東風の中しばし背を向け草野球」も天賞一つを獲得されました。東風で舞い上がるグラウンドの砂塵の中、選手が時折背を向けてその風をやり過ぎす情景に、シャッターを押されました。見事なシャッターチャンスでした。天賞はありませんでしたが、多佳さんの句「東風の来て子は発ちゆけり駅の朝」が、最多得票賞句（☆印）に輝きました。この句は駅の朝の情景ですが、中七の「子は発ちゆけり」に、読者の想像が膨らみます。この子にとってはどんな出発だったのでしょうか。印象に残る句になりました。選外になりましたが、傘吉さんの句「大漁は東風にはためく幟かな」が、高得票を獲得されました。大漁にはためく幟の勇壮さに選者の票が投じられたのですが、「幟」は夏五月の季語です。まさに「季重なり」の「季違い」という句になっています。「季重なり」で「季違い」の場合は、どちらが句の主格となる季語であるかが明解であれば、許されると聞きますが、この句の場合は如何でしょうか。

席題3. の自由題句では、傘吉さんの句「退院の足取り軽ろし春コート」が、天賞一つと最多得票賞句（☆印）に輝きました。本日の傘吉さんは絶好調です。三句とも高得票を獲得されました。この句は下五の「春コート」が、安堵感と明るい退院の情景を醸し出しています。お見事でした。欠席投句でしたが、歌多音さんの句「友逝きぬまた友逝きて散る椿」が天賞二つを獲得されました。この句は私たちの現状では、よく身につまされる情景です。下五の「散る椿」で表現された椿の散り方の潔さというか、覚悟のほどを読者に想像させる働きをしているかも知れません。枯葉さんの句「巢立ちたるつばめは何処空青し」が天賞一つを獲得しました。下五の「空青し」が、巣立っていった燕に拍手喝采を送っているようです。もう一句、晶如さんの句「蓬摘むをんな楽しむこと多し」も、天賞一つを獲得しました。作者は春の野道で蓬を積む人を「をんな楽しむ」と表現されました。どんな楽しみだったのでしょうか。これまた物語の膨らむ句になっています。白然の句「雨やさし白花浮き立つ梅古木」も、天賞一つをいただきました。雨が表現してくれる梅古木の黒と咲く白い花の対照を詠ませていただきました。春の雨は優しく白梅を浮き立たせてくれました。

二次会は新橋ばる一ん近くの洋酒居酒屋ローズ&クラウンにお世話になりました。このお店ではメンバーが好むメニューがあり、いつも幹事役を引き受けて下さる和感さんが、上手にオーダーをして下さいます。そして、それぞれが選ぶお酒と美味なるご馳走、仲間との和やかな会話で、句会後のひとときを楽しみました。和感さんいつも有難うございます。次回は4月4日（木）です。皆さん、また元気にお会いしましょう。

白然記